

失われつつある海岸

今年の夏、私は家族旅行で石川県の能登半島に出かけた。

私はそこで初めて車で砂浜をドライブした。

その場所は能登半島の西側の付け根に位置していて、千里浜海岸という場所だった。

日本で海岸線を車で走れる場所はここだけで、世界でも珍しい場所だという。

全長8kmほどの海岸線を潮風を感じながら走る経験は初めての体験で、とても楽しかった。

途中で海鮮焼きを提供している浜茶屋に立ち寄った。

浜茶屋のおばさんは、おしゃべりが好きな地元のおばさんで、

客が私達家族しかいないせいもあり、いろいろなお話をしてくれた。

漁師の夫が獲った魚や貝を提供していること。浜茶屋の建物は毎年解体して、立て直していること。

そんな話の中で私が一番驚いたのは、この海岸の幅が昔と比べて狭くなっている話だった。

おばさんが子供の頃は砂浜を100mほど横切らないと海までたどり着かなかったという。

私の目の前の砂浜は、波打ち際まで25mほどだった。

旅行から帰ってきた私は、「海岸侵食」について調べた。

「海岸侵食」はここ数十年で、神奈川県茅ヶ崎海岸、茨城県の九十九里海岸など、

日本全国で問題化していることを知った。

私の行った石川県の千里浜の海岸も1986年から2009年の間、

年間約1mのペースで侵食が進んだという。

石川県も千里浜再生プロジェクトを結成して、砂の投入や人口リーフの整備を進めている。

そのかいかあって、十年間で毎年約2mずつ回復できたという。

海岸侵食の原因は色々あるらしい。

上流にあるダムや近隣河川の護岸化で海に供給される砂の量が減少していること、

地球温暖化による海面上昇や浜辺の植生の変化などだという。

また、生態系さえも壊してしまうという。

父の運転する車で千里浜の海岸を駆け抜けた時間は1時間ほどだったが、

海のない山梨に住んでいる私にとっては間違いないこの夏一番の特別な体験だった。

海のない山梨に住んでいることもあってか、「海岸侵食」という言葉をはじめて知った。

だが、海があろうがなかるうが、決して関係のないことではない。

将来、海で遊べなくなってしまうかもしれない。

今までいた生き物たちがいなくなってしまうかもしれない。

私達、一人ひとりができることは、そう多くはないが、

その小さな一つひとつが未来を変えられると私は信じている。

こんな素敵な場所を決してなくしたくないと思った。

海からの風が心地よかった。

駿台甲府中学校 一年

平澤花香

絵 J U I I